

## ●生理学サマースクール2002 報告

日本生理学会若手の会

東京医科歯科大学大学院心療・ターミナル医学分野 松田 哲也

今年で2度目となる生理学サマースクールは、8月5日から7日の3日間、慶応大学医学部にて開催された。

生理学サマースクールは平成11年3月の京都での日本生理学会の時、若手の会で生理学のサマースクールを開催しようではないかと話がでたのがはじめだった。このとき開催することは決定したものの、その場で唯一決定したのは開催時期で各大学の夏休みを利用した8月上旬に行くということだけで、費用、場所等はずっとよりテーマ、講師依頼についての細部はまだ何も決まっていなかった状態だった。はじめての開催であるにもかかわらず残された時間は4ヶ月ちょっとしかなかった。実際、細部をつめていくと問題がいくつもでてきたが、自分達を信じて最後まで突き進むしかなかった。一番問題になったのは、講師に対する謝礼、交通費であった。もともと財政に余裕があつてはじめてのものでもなかったもので、支払うにしても参加者からの参加費からしか当てはない。しかし、参加費はできるだけ抑えて、やる気はあるがお金があまりないという人でも参加できるようにしたいという考えからたどり着いたのが、謝礼、交通費なしでの講義依頼であった。完全なボランティアで本当に熱心に講義していただいた講師の先生方なくてはこのサマースクールは成り立っていなかった。どうにか2日間の第1回サマースクールは100人以上の参加者を得て、大成功に終わった。これをうけ、継続して第2回も開催することになった。第2回は第1回の評判も絡んでくるであろうし、また魅力ある講義内容が設定されていなければ参加者は集まらないということで、運営側としては第1回にましてかなり気を使った。このような背景を踏まえて第2回サマースクールは以下のようなコンセプトに企画された。

「—脳神経活動の計測技術・解析法—視覚情報処理システムの理解をめざして」をテーマとし、視覚情報処理のメカニズムを脳の部位別にその機能を理解していこうということになった。また基礎、臨床といった双方からのアプローチ、医学のみならず工学、心理学と様々な分野から学際的に捉えていこうといった現在の研究スタイルを反映した構成とした。各先生の持ち時間を2時間とし、昨年より時間を長くすることで実験方法や解析法といった基礎の部分からまた内容もより詳しく話せるようにし、専門分野外の人でもできるだけ理解できるように努めた。会期も2日間から3日間に延長した。終了後に行ったアンケートの集計では、講義は「よく理解できた」、「難しかったが十分理解できた」と答えた参加者が全体の8割以上だったことを考えると講義時間も適当であったように思える。参加者は大学生から教授まで非常に幅広い年齢層であり、医学、工学、心理学、文学、薬学と多くの分野から70人超であった。また参加者には作業療法士、臨床心理士といった、通常生理学とあまり縁のない臨床に携わっている人たちもおり、この方々の講義終了後の感想では、半側空間無視や精神疾患患者さんの異常のメカニズムが視覚情報処理の基礎から実際の臨床例までを含めて理解できたので、今後の臨床に幅が出せると喜んでいて。

今回は新しい試みとしてサテライトシンポジウムを開催した。「生命科学と理論物理学との対話—ゆらぎの科学—」をテーマに生理学とは違った理論物理学という視点から生命科学を捉えてみた。生理学の視点以外からのアプローチは我々にとっては新鮮であり、非常に刺激的であった。

初日の夜にはBeer Partyを行い、参加者の自己紹介など行いはじめて知りあった者同士、話が

できる機会も設けた。このあと、時間が足りなかったいくつかのグループが夜の居酒屋でディスカッションを続けていた。このように参加者同士も非常に良い雰囲気に参加できたばかりでなく、若手同士のよい情報交換の場にもなれたのではないかと思う。スタッフも数名でまだ不慣れなところもあり、講師の先生方をはじめ、参加者の方々にはいろいろと失礼があったと思いますが、全体としては第2回サマースクールも大成功に終わることができたと思います。

サマースクールを担当した小泉、安松、松田3人ともに「何があっても絶対どうにかなるはずだ」と考える前向きな性格がまた良い方向にもっていったのではないかと思った。このとき、この共通する何かは毎回きれいなデータが取れるとは限らない、地道な実験を要する生理学の研究をおこなっているうちに培われた精神なのではないかとも思った。

第3回サマースクールは2003年8月に開催する予定です。今回は「記憶と学習」を題材にしてこれまで同様、生理学の基礎から応用までを学べることを目標とします。詳細は決定次第お知らせいたします。サマースクールに対するご質問、ご要望がありましたら担当の松田 (matsuda.psyc@tmd.ac.jp) までご連絡ください。是非多くの方の参加を望んでおります。また、今回からサマースクールは日本生理学会と日本生理学会若手の会の共催となります。

最後に今回のサマースクール企画運営について、相談させていただきいろいろご助言をいただきました日本大学医学部システム応用神経科学(旧第一生理学教室)泰羅雅登先生をはじめ、サマースクール事務局設置などご協力いただきました東京医科歯科大学心療ターミナル医学分野松島英介先生、またお忙しいところ親切丁寧に講義をしていただきました多くの講師の先生方に感謝します。

生理学サマースクール2002スケジュール

8月5日(月)

イントロダクション

松田 哲也(東京医科歯科大学大学院心療ターミナル医学分野)

Neuron シミュレータを用いた網膜視覚情報処理機能の解析

小泉 周(慶応義塾大学医学部生理学教室)

平面型マルチ電極の網膜への適用

石金 浩史(東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室)

外側膝状体と一次視覚野の情報処理

佐藤 宏道(大阪大学健康体育部・大学院生命機能研究科)

サルMT・MST野:視覚運動情報処理と立体視

永福 智志(富山医科薬科大学医学部第2生理学)

—講義終了後Beer Party—

8月6日(火)

頭頂連合野における視覚情報処理

泰羅 雅登(日本大学医学部生理学教室)

側頭葉視覚連合野における情報処理と機能構築

藤田 一郎(大阪大学大学院生命機能研究科)

視線運動制御と前頭葉視覚領域

福島菊郎(北海道大学大学院医学研究科認知行動学分野)

サテライトシンポジウム

「生命科学と理論物理学との対話」

フラクタル・カオス・相転移の基礎

高安 秀樹(SONY CSL)

臨界ゆらぎの数理

高安美佐子(公立ほこだて未来大学)

8月7日(水)

半側空間無視—ヒトの右大脳半球損傷による方向性注意障害

石合 純夫(東京都神経科学総合研究所リハビリテーション研究部門)

行動決定と前頭連合野

坂上 雅道(玉川大学学術研究所脳科学研究施設)

精神神経疾患の眼球運動

松浦 雅人(日本大学医学部精神神経科学教室)